

防災訓練実施結果報告書の要旨

○玄海原子力発電所における総合訓練（複数の訓練を組み合わせて行う訓練）

訓練実施日	平成29年12月4日		
参加人数	518名（協力会社143名、他電力4名を含む）		
想定した原子力災害の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1号機は廃止措置段階、2号機は定期検査中に全交流動力電源が喪失。 ・ 3, 4号機は、定格熱出力一定運転中に、地震発生により、原子炉が自動停止する。 ・ 3号機は蒸気発生器への給水機能喪失事象発生後、非常用炉心冷却装置注水不能により原子力災害対策特別措置法第15条事象に至る。 ・ 4号機は、全交流動力電源が喪失するとともに原子炉冷却材漏えいが発生し、非常用炉心冷却装置注水不能により原子力災害対策特別措置法第15条事象に至る。 		
訓練の内容	<p>以下の項目を「シナリオ非提示」にて実施</p> <table border="0"> <tr> <td> 【玄海原子力発電所】 (1) アクシデントマネジメント（AM）訓練 (2) 緊急時対応訓練 (3) 通報訓練 (4) モニタリング訓練 (5) 避難誘導訓練 (6) 原子力防災要員等の動員訓練 (7) 火災対応訓練 (8) オフサイトセンター連携訓練 </td> <td> 【本店即応センター】 (1) 通報訓練 (2) 緊急事態支援組織対応訓練 (3) モニタリング訓練 (4) 原子力防災要員等の動員訓練 (5) 原子力事業者間協力協定に基づく支援連携訓練 (6) 発電所支援対応訓練 (7) プレス対応訓練 (8) 住民避難支援対応訓練 </td> </tr> </table> <p>【後方支援拠点】 (1) 現地設営・運営訓練 (2) 発電所支援に係る本店との連携訓練</p>	【玄海原子力発電所】 (1) アクシデントマネジメント（AM）訓練 (2) 緊急時対応訓練 (3) 通報訓練 (4) モニタリング訓練 (5) 避難誘導訓練 (6) 原子力防災要員等の動員訓練 (7) 火災対応訓練 (8) オフサイトセンター連携訓練	【本店即応センター】 (1) 通報訓練 (2) 緊急事態支援組織対応訓練 (3) モニタリング訓練 (4) 原子力防災要員等の動員訓練 (5) 原子力事業者間協力協定に基づく支援連携訓練 (6) 発電所支援対応訓練 (7) プレス対応訓練 (8) 住民避難支援対応訓練
【玄海原子力発電所】 (1) アクシデントマネジメント（AM）訓練 (2) 緊急時対応訓練 (3) 通報訓練 (4) モニタリング訓練 (5) 避難誘導訓練 (6) 原子力防災要員等の動員訓練 (7) 火災対応訓練 (8) オフサイトセンター連携訓練	【本店即応センター】 (1) 通報訓練 (2) 緊急事態支援組織対応訓練 (3) モニタリング訓練 (4) 原子力防災要員等の動員訓練 (5) 原子力事業者間協力協定に基づく支援連携訓練 (6) 発電所支援対応訓練 (7) プレス対応訓練 (8) 住民避難支援対応訓練		
訓練の評価	<p>○発電所、本店、後方支援拠点及び各支社が連携し、原子力災害発生時に原子力防災組織及び本店原子力防災組織があらかじめ定められた機能を有効に発揮できることを確認。</p> <p>○訓練を重ねるごとに、これまでの訓練から抽出された改善点について、その対策の効果を確認。</p> <p>○昨年度訓練の主な改善項目における状況は、以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国の緊急時対応センター（ERC）リエゾン*からERCへの情報提供方法の検討 ⇒ERCリエゾンの役割について明確にし、本店即応センターと連携した情報提供を行い、本店即応センターを補完する役割が災害対応に有効であることを確認 ※ERCリエゾン：本店即応センターをサポートするためにERCに派遣した当社の要員 ・ 本店即応センターのブリーフィング内容をERCと共有する際のTV会議の運用についての検討 ⇒本店即応センター内ブリーフィングの際は、ERC対応者へブリーフィングを実施する旨の報告を行うよう周知するとともに、ERC対応状況に応じてマイクの使い分け（ERC・館内）を行うことで、ERCとの会話を阻害する場面が少ないことを確認 ・ 代替緊急時対策所内での情報共有のためのマイク追加配備等の検討 ⇒代替緊急時対策所内の館内マイクを追加配備し、原子力総合防災訓練及び今回の訓練において、館内マイクを用いた情報共有が実施できることを確認 		

今後に向けた改善点等	<p>○より一層の充実を図る観点から、今後の訓練に反映する主な内容</p> <p>【本店即応センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ E R C との更なる情報共有に努めるため、対応戦略等の伝達・共有が容易に可能となるよう、プラント状況に応じた対応方針を記載した戦略シート等の作成について、他電力の訓練状況も踏まえ検討する。 <p>【玄海原子力発電所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原子力災害情報システムへの時系列の入力について、対応要員が代わった場合においても、記載内容に差が生じないように記載要領を整備する。
------------	---

○玄海原子力発電所における要素訓練（作業手順の習熟を図る個々の訓練）

・対象期間：平成29年3月1日～平成30年1月31日

項目	実施日	参加人数	訓練の概要	今後に向けた改善点
緊急事態支援組織対応訓練	平成29年3月16日	9名	○発電所において原子力災害が発生したことを想定し、原子力緊急事態支援組織への支援要請及び遠隔操作資機材の操作訓練を実施し操作技能の習熟を図る	・今後も、訓練において状況を確認し、更なる改善を検討していく
	平成29年9月2日、9月3日	3名		
通報訓練	平成29年6月7日	62名	○通報連絡要否判断、通報連絡文の確実な作成及び社内外関係箇所へ迅速かつ確実な通報連絡ができることを確認する	同 上
原子力災害医療訓練	平成29年10月25日	17名	○管理区域内で負傷者が発生したことを想定し、負傷者の搬出、汚染の除去、応急措置等の訓練を行う	同 上
モニタリング訓練	平成29年12月21日	21名	○緊急時モニタリング（放射性物質濃度、放射線量の測定等）に係る対応能力の向上を図る	同 上
避難誘導訓練	平成30年1月15日	29名	○見学者来訪時に緊急事態が発生したことを想定し、関係者への迅速な連絡、避難誘導ができることを確認する	同 上
A M 訓練	平成30年1月29日、1月31日	56名	○アクシデントマネジメントガイドラインを用いた事象進展防止、影響緩和措置の判断・選択が適切に行われることを確認する	同 上

以上